

# 宮の森

発行元・白鳥神社総代会

## パワースポット



白鳥神社は白鳥伝説に始まる。それは西暦百九十年代、古事記にある仲哀天皇の頃である。その時、この地を大白鳥が舞い、一本の羽を落とした。それは日本武尊の化身と敬い祀った。その後、七百一十年代に、泰澄大師が白い鳥に出会い霊示を受ける。「この地に伽藍を建つべし」と言われ、一社を建立して伊弉冉を祀った。

白鳥神社境内は通称「宮の森」として親しまれている。境内、二千坪に二百数十本の樹木群が自生している。それは、岐阜県天然記念物に指定されている。

その中に幹回り三米〜六米の樺の巨木群があり、これ等は御神木として崇められている。

白鳥神社拝殿の西方に樺堂がある。

堂の中には神社の象徴とされた大樺の一部が残されている。この樺は、樹齢推定千五百年。樹高二十五m、胸高周り七m、東海一と言われた。しかし、平成十二年に枯木と判定



され、地上から二mを残して切断された。切り倒す時、晴天だった空が一転俄かに曇り、降雨となった。だが伐り終わると、空は元の晴天に戻った。この時、残された切株に神が宿ったと信じ、これに鞘をかけ、後世に伝える事となった。鞘堂にどっしりと鎮座する御神木に千五百年のパワーを感じて下さい。

又、この樺の二代目とも言える巨木が、本殿に食い込むように、そびえている。まさに本殿と一体となった姿は、御神木そのものである。長寿を誇る彼等と出会い、そのパワーをお感じ下さい

## コロナ禍での元日

コロナ・パンデミックの中の元日・歳旦祭でした。皇居では朝5時半から行われます。歳旦とは元日と同じような意味で、年の初めの朝の意。日本全国の神社で行われます。年始を祝い、一年の御加護、五穀豊穣、国民の繁栄を祈念する。参拝者は年始の挨拶も交わす。

白鳥神社では午前9時から拝殿で齋行。宮司は純白の装束。総代は礼服に意義を止めます。6年ぶりの雪の舞う中での神事となりました。境内には、琴の音が春の海を流している。雪は時折、横に降る吹雪の様も見せる。宮司を始め、参拝者は防寒着等とえず、薄着である。歯がガチガチと鳴る寒さ。

丹田に力を籠め、背筋をスーと伸ばして拳を握りしめる。そして歯を食いしばる！時折、粉雪が拝殿に舞い込んで、頬を撫でる。もっと吹き込め！と開き直ると震えは止まった。神事の終わりは、総代長挨拶である。

「丑は干支では一番目である、その訳は、十二匹の動物が神様に新年の挨拶に行く事になった。牛は自分がのろまであることを知っていた。従って、前日に家を出て向かった。その背中にネズミが乗っかり、着く寸前に降りて飛び込んで一着。牛は一着であったが、彼は「こ」を知り、マイペースを貫いた。真面目で実直で、慌てず、我慢強いのが牛である。今、世の中はコロナで右往左往。不安と不透明に、人心は乱れている。誰も決定打を打ち出せないでいる。こんな時こそ、ジタバタせず、我慢の二字ではないでしょ

うか。よしや歩みは遅くとも、牛に学びたいと結んだ。下手な長談義で、聞く人はさぞかし寒かったろう。御免なさい。



## 初詣・コロナ対策

今年の参拝のお客様は例年の半分位だった。原因はコロナ禍による密集の回避と六年振りの降雪が出足を鈍らせたようだった。コロナ禍対策として、まず神社入口の手水場に工夫を凝らしました。柄杓は使わず、タオルも準備しませんでした。竹筒を加工して、水が常時流れ出るようにして、間接接触を避けました。

お神酒の振舞は、土器を使わず、使い捨てのミニカップを用いました。今年も元文さんから清酒一斗を御奉納頂き、加えてそのミニカップを寄贈頂きました。

社務所の縁起物売り場は、ビニールでカーテンを設置、おみくじ配布には、常時、アルコール消毒器を置き、くじ棒はその都度、消毒する事に勤めました。



祈年祭・初午祭 神事



例年ですと五十数名のご参拝の元に齋行する所ですが、コロナ禍により、約半分の二十八名に縮小して行いました。祈年祭、初午祭は共に、その年の豊作、商売繁盛と国家の安寧を祈願する祭典神事であります。世相は新型コロナウイルスにより、総てが大きくゆがめられ、自粛する中で、強い閉塞感に満ちております。

コロナ禍で世界の貿易もバランスが崩れております。日本も輸入規制により、今後、農作物が入ってこない事態が想定されます。コメは九十%台、野菜は八十%台の自給率ですが、その他の農産物は十〜三十%台であります。コロナ次第によっては、自給自足が求められる状況になる恐れがある、と昨年の農業白書は言っております。食料自給率を高める事が、強くて、安定した自国を守る事になるのではないのでしょうか。農事に関する神事なので、愚考を申し上げます。

新年度総代会陣容

この三月で左記、六名の総代さんが交代されました。

原 二元様、曾我幸男様、蓑島芳隆様、三島三男様、稲葉 荘 様、田代文雄様。長きに渡り、白鳥神社に對しまして、篤いご支援、ご協力、誠に有難うございました。四月からは左記の陣容で護持運営に当たります。

- 一 号組.....高橋昌樹
二 号組.....古家孝一
三 号組.....室谷止紀
四 号組.....久野博通
五 号組.....榎本一幸
六 号組.....正者芳貴
七 号組.....寺田一晴
八 号組.....内ヶ島朗
九 号組.....足立好教
十 号組.....
十一 号組.....上村公男
十二 号組.....二輪規裕

- 十三号組.....白石治美
十四号組.....長屋 誠
十五号組.....野崎英夫
十六号組.....二島敏治
十七号組.....曾我幸男、補佐・正者憲次
十八号組.....宮司・瀬上孝男、社守・曾我幸男、副・三輪規裕
十九号組.....副・三輪規裕
二十号組.....古家孝一、副・三輪規裕
二十一号組.....北条弘三 (赤字は新任です)

金子社守・御勇退



金子 明 氏

令和三年三月二十一日を以て引退したい旨の辞意を表明されました。金子 明氏は昭和十四年生まれ、平成十五年白鳥神社の社守に就任。以来、瀬上治夫、佐藤澄夫、瀬上孝男の三宮司に仕えて来られました。神社では、年の初めの歳旦祭に始まり、秋の新嘗祭に至る迄、定期的な十数回の神事が行われます。加えて、不定期的な神事を加えますと年に二十回前後の神事があります。その都度、主に神饌、玉櫛、等を準備され、神前の飾り棚を配置されます。神事においては、宮司のアシスタントとして、袴、袴に威儀を正し、神事の進行を計ります。そして、時には、神事に使うゴザ、大神楽の役者衆が履く、草履、草鞋も作られました。

又、秋の新嘗祭には、その年の新米一斗を永年に渡り神前に御奉納を頂いております。これ等を、十八年の長きに渡り務めて来られ、神社の発展に大きく寄与されました。神道全般に深くお心を寄せられ、敬神の念、誠に篤きお人柄でありました。しかしこの度、体力の限界を感じたので、身を引きたいとの申し出で御座います。残念ではありますが、辞意をお受けする他ないかと、思うに至りました。



曾我 幸男 氏

長年のご功勞に感謝申し上げます。この先の余生が、充実したものである事を心よりお祈り申し上げます。有難うございました。尚、後任には永年、大神楽

の師匠として、後進を指導され、雅楽の奏者でもあり、前期は副総代長を務めて頂きました曾我幸男さんが就かれま

御寄進・ご奉仕

- 一、本殿寶銭箱文字彫刻.....西村石材店 様
一、お守り木札制作.....川崎 弘 様
一、樽酒一斗とミニカップ.....原 酒造 様
一、コロナ対策手水舎施設作成.....足立好教 様
一、手水舎柄杓四本.....クラーレ 様
一、竹灯籠LEDランプ30個.....瀬上博通 様
一、小型除雪機による除雪作業.....野々村薫 様
一、除雪ユニボ―無償貸与.....曾我工務店 様
一、ペイローダーによる除雪作業.....正者憲次 様
一、秋葉神社倒木処理.....曾我幸男・正者憲次 様
心温かいご寄進、ご奉仕、誠に有難うございます。

令和三年四月からの主な行事予定

- 4 / 1 宮の森25号発行
4 / 3 防火祈願祭〜秋葉神社
4 / 11 初宮神事・新旧総代歓送迎会
4 / 11 宮掃除・井普請
5 / 3 稻荷神社例祭神事
6 / 3 自治会・総代会三役会議
6 / 27 宮掃除
7 / 19 境内・秋葉神社草刈り清掃
7 / 21 秋の例祭打合せ会議〜神楽幹部・総代二役
7 / 25 初宮神事

新春初詣・伊勢参り 中止

毎年一月初旬に行われてきました、神社庁郡上支部主催の初詣・伊勢参りがコロナ禍により中止となりました。一泊二日で約二百名での御垣内参拝、戸田屋に宿泊しての大懇親会、翌日は京都近隣の有名神社への参拝が定番でしたが、中止となり残念でした。(文責・瀬木)